

## 第2回南区まちづくり懇談会 会議要旨

1 開催日時 令和元年（2019年）6月27日（木） 午後6時30分～8時30分

2 開催場所 南区役所本館4階講堂

### 3 出席者

(1) 委員（15人中10人出席）

松田座長、田丸副座長、秋田委員、沖本委員、門委員、加藤委員、角田委員、高橋委員、平岡委員、丸山委員

(2) 南区役所

南区長、副区長、厚生部長、建設部長、区政調整課長、地域起こし推進課長、地域起こし推進課職員

### 4 議題

(1) 南区のまちづくりの方向性について

5 公開・非公開の別 公開

6 傍聴者 0名

### 7 会議資料

(1) 議事資料

議事資料1 南区のまちづくりの方向性について（案）

(2) 参考資料

参考資料1 広島市総合計画の改定と南区まちづくり懇談会について

参考資料2 まちづくり活動に対する支援について

### 8 議事内容等

(1) 南区のまちづくりの方向性について（案）

議事資料1及び参考資料1により、地域起こし推進課長から説明を行った。

(2) 情報提供

参考資料2により、地域起こし推進課長から情報提供を行った。

### 9 発言の要旨

松田座長

議事に入る前に前回欠席された委員がおられるので、自己紹介をお願いしたい。また、前回委員の皆様から今後の南区の将来についてどのようにお考えか御発言いただいたので、あ

わせて御発言をお願いしたい。

沖本委員

私はスポーツ推進委員としてスポーツを通して健康寿命を延ばすために活動している。先日は宇品東敬老会で幼児や小学生のダンスが好評で、若い人と高齢者が触れ合う場ができた。こういった若い人と高齢者が触れ合う場所が増えていくといいと思う。

松田座長

南区にはマツダスタジアムやバレーボールの拠点もあり、スポーツには観る楽しみも参加する楽しみもあるので、スポーツを通して地域が盛り上がる要素がたくさんある。

(1) 南区のまちづくりの方向性について

松田座長

この南区のまちづくりの方向性（案）について、委員それぞれの皆さんに御意見をいただきたい。最初は田丸副座長をお願いしたい。

田丸副座長

左側の第5次基本計画から、一番右側のこれからの南区のまちづくりの方向性というところで、右側のものが市議会の議論に資するというところで、ここの文言をテーマに進めさせていただこうと思っている。

1番目の柱については全く異論はないが、2番目の柱で、私の普段の活動の関係と前回の議論で、町内会や子ども会での地域活動の担い手というところに大変危機感を感じている。

ただ一方で、子ども会活動が復活したという御発言であるとか、さまざまな社協の部会の中で、1回なり2回なり、さまざまな部門の会合を重ねているという御発言があったり、やはり担い手の育成に関して、関心は高いと思う。その中で、左側の第5次基本計画のほうだと、子どもの居場所づくりや高齢者の見守りという形で、小さな子どもたちと高齢者と2つの核を明言しておられるのだけれども、右側の南区のまちづくりの方向性だと担い手の育成というところに重点を置くだけで、そういった地域づくりの核になる部分を、居場所づくりはほぼほぼ展開できたというふうに見ていいのかと思う。

また、アンケートの回答の中に、一番気がかりというものについて南区の身近な課題でトップに上がっているのは、福祉での、一人暮らしの高齢者が増えてきたということなので、こういった核になる子どもたちや高齢者というものを外して大丈夫なのかと思う。

松田座長

事務局から御意見があるかもしれませんが、先に委員の皆さんの御意見を伺いたいと思うので、以降は順番に発言をお願いしたい。

秋田委員

私は、町内会とか、社会福祉協議会とか、あるいはPTAとか、子ども会とか、長い間やってきたが、2番目の柱のことについて、人と人のつながりを大切にしたいみんなが支え合う安全・安心なまちづくりとあるんだが、冷たい感じをすごく受ける。みんなで守り合うまちづくりというが、そうではなくて、やっぱりもっと楽しく豊かな生活ができるまちづくりがしたいのではないか。

最近、たくさん起こってるいろんな事件、ひきこもりの人が小学生を襲ったり、あるいはひきこもってる自分の息子がそういうことを起こしてはいけないと思って、お父さんが殺したり、あるいは、高齢の奥さんを殺して、自分も山の中で自殺をしたりということが起きている。

これは、このような事件は、もっともっと増えていくと思っている。

私たちが小さなころには、殺人事件というのが新聞に載るっていうこと自体が珍しかったが、今はもうごく当たり前のように、家族同士とか身内同士の殺人事件が載っている。

それと、私の周りを見渡すと、あの子はあそこで働いていたのに、家の中にひきこもっているというのが何人もいる。そういう子どもはすごくたくさんいるのではないか。

児童とか生徒とかのひきこもりというのは、社会に出た子どもたちが、若者がひきこもっている実態というのが、どれほど調査されているのか、あるいは、その助けをしようとしているのか、そこがちょっと見えない。

やっぱり、もっとそういう人たちがまちの中の行事に参加して、みんなで楽しくまちづくりができるようになったらいいというのが、私が出してるものの意味なんだが、区役所中心にとあえて書いたのは、民生委員の問題がある。私の町は、民生委員をある時期から出していない。

というのは、今、民生委員は個人情報保護ということで、昔は、民生委員さんがいろんな、ひとり住まいの人とか、高齢者世帯、そういうところで話をして、あるいは、生活保護の家でいろんなことを話して、勤め先を探してあげたほうがいいかなとか、こんなことをしてあげたらいいのかなというのを、町内会の役員会でみんなで話をして、あその人にこういうふうにしてあげようやというような話をしていたが、今は民生委員もそういうことはできない。そうすると、民生委員さんがいろんな問題を抱えても、解決する方法がなく、区役所で相談するしか方法がないんじゃないかなと思う。もう民生委員さんというのは、地域包括支援センターに一括委託をして、地域包括支援センターがその役割を全部やったらいいと思う。今も、そういう役割を幾つかをしているし、ひとり暮らしの人の安否の確認もしている。そういうことから、地域包括支援センターがやれば、問題も中で検討して、いろんな問題を解決できる。あるいは、他の地域包括支援センターと相互協力することもできる。

そういうふうなことで、町の中で隠れて困っている人、表に出られない人をもっとみんなが引っ張り出して、一緒にやろうというような、そういうまちづくりをしたいなと思っている。

松田座長

ありがとうございました。おさらいをすると、新しい計画の事務局案の2番目のところ、タイトルは別として、概要で書いてあるところが、ドライな感じで淡々と書きすぎているということでしょう。

秋田委員

私が思うのは、僕らのような年寄りが、若い人のことを考えても、限界がある。だから、今の小学生、中学生、高校生、大学生とか、あるいは10代、20代、30代、40代の世代別で市の施策に対する諮問グループのようなものを作って、それぞれの世代に属する者たちが自分たちの、将来に幸せになるためにはこうしてほしいや、こうしたいといったことを話し合っ、その上で市の施策にしっかり提案をしたりするような諮問グループを作ったらいと思う。

松田座長

ありがとうございました。今の部分、どちらかというとアクションプランになるが、この概要の4行目に、例えば、先ほどの田丸副座長さんのお話だと、「高齢者」という単語が欲しいとか、秋田委員さんのお言葉だと、「区民が全員参加する豊かな暮らしができるまち」みたいな単語が入ると、みんなが、障害を持つ人も、ひきこもっている人も、高齢者も、子どもまでみんなが参加するというようなニュアンスの文章になってほしいというような御意見でよろしいでしょうか。

沖本委員

私は方向性についてはよろしいかと思うけれど、スポーツ推進委員として活動しておりまして、市でスポーツを広めるために、ニュースポーツとかを勉強してきて、それを学区にそれぞれが持って帰るけれど、そこで地域に浸透するのがなかなか難しい。やっぱり横のつながりがないと、結構難しく、やりにくいところがある。昔だったら、私もバレーボールをしていて、突っ込んでやろうみたいな雰囲気や温かい仲間でやろうみたいな雰囲気があった。今、きっと運動したい人はいっぱいいると思うが、もう一つ踏み込んであげたら、きっと何人かの人が、もっとたくさん来ると思うが、それがなかなかうまくいかない。

一番ネックは、やっぱり情報がみんなに行き渡らない、個人情報を出したらいけないじゃないけど、要するに防災は防災でやって、ボランティアはボランティアでやって、ばらばらに調査して、これを一つに共有できないものかなと思うが、それは難しい。それがいつも頭にあるが、なかなか個人情報なので、そういうジレンマがある。きっとやりたい人、若い人も、一つ声をかけてあげたら乗ってくれるんじゃないかなと思う。

私も最初なったときに、学区の人に名前覚えてもらうのが一番と言われて、やっと昨年、子ども会から3世代でやるんだけど、何かいいスポーツはないかと言われて、じゃあ、体協と子ども会でやりましょうと言って、100人近く集まった。すごく楽しんでやってくださって、そういうことが広がっていいと思う。生きにくい世の中はちょっと悲しい

かなと思う。

松田座長

今の御意見は、3つ目の柱の概要に、文化・スポーツについて、今、3行で書いてあるが、そういうところにネットワークとかコミュニティといったニュアンスを出したいというふうに捉えてよろしいでしょうか。

沖本委員

すいません、話が下手で、気持ちだけはあるが、申し訳ありません。

松田座長

いえ、わかりました、ありがとうございます。

田丸副座長

先程御紹介いただいた高齢者と小さい子が触れ合う場は、どのようにして実施されたのですか。

沖本委員

いつも毎年敬老会で、いろんな催しをするが、地域の民謡している方、幼児の人とか、いろいろ呼んで、要するに指導する場になっている。今回は、千田町でやってるキッズの方々をお呼びして、あとは東にある民謡の先生のところで習っていらっしゃる大人の方もされたが、やっぱり幼稚園児が何人かがやってくださって、それがすごくかわいかった。

松田座長

ありがとうございます。また具体的な御要望は、アクションプランのときにお伺いする。

門委員

現実的に、いろいろ地域のつながりというのが問題になっているが、これは、ある程度生活にゆとりがないとできない。言葉上では幾らでも言えると思っている。

私に収入があった時代と、今の若い人で比べたら、今の若い人の生活は苦しいだろうと思う。私は公務員だったので、もとの職場に行って話聞いたら、給料は伸びないが、子どもは大きくなり、生活が苦しいと聞く。極端に言えば、地域の行事どころではないのではと思う。2,000万円要るとか要らないとか言われるが、私の息子に、お前達の時代は、今の年金の半分ももらえないから、老後の生活は維持できない。だから、現実的に考えて夫婦で一生懸命働かんとしょうがないと伝えている。

だけど、昔の私などの豊かな時代に育った世代はおおらかな人が多い。いろんな集まりにはよく顔を出して、お互い意思疎通ができた。それは、元宇品は、小さい島なので、え

らそうに言うことではないが、宇品などの皆さんの大きい町と比べたら一町内で 600 世帯ぐらいなので。

ただ、このままでいくと、それこそ世の中すさんでしまう。地獄の沙汰も金次第というわけではないが、二重にも三重にも苦しむようになるのではないか。

元宇品も一つポイントになるのは、住んでいる人の数を維持できるか。これが、減れば減るほど、やっぱりコミュニケーションとりにくくなる。

たまたま今日見たんだけど、沖縄が返還になったときに、そのときの佐藤首相が将来展望として、まず、沖縄の人口を減らさない。人が減ると、必ず衰退するので、それが第一命題だと言っていた。ああ、そんなこと言われたのかと。要するに、人がいなくなるとコミュニケーションがなくなる。

今、元宇品はそんなに人が少ないわけではなく、人は住んでいる。最近私が困っているのは、地域包括支援センターのほうから、お年寄りの名簿を作ると言われたが、民生委員さんで作ればいだろうに、何で二重にも三重にも同じことをやるんだと思った。だけど、守秘義務があるから公開できないので、同じようなことを二重にも三重にもやっている。

たまたま元宇品は、先代の町内会長の時に家族構成とか全部登録している。それは守秘義務があるので、誰でも見れないようにはしてあるが、そういうことを 20 年ぐらい前に作っていた。そういうふうに、一応元宇品の方は先進的な例があり、家族構成を全部把握している。

今、また改めて地域包括支援センターから名簿を作ってくださいと言われており、国などから言われてやりなさいということでしょうから、協力はしないといけないかなという話にはなっている。私自身は、会議にも出てたんで、そういう話もしようと、二重にも三重にも同じようなことをしないほうがいいのではないかと思う。地域包括支援センターが全部やればいいのかと思うが、それをするには、人がそれほどいない。ちょっと文句ばかり言って申し訳ないけど、そういう考えだ。

松田座長

門委員さんは、特にこの辺の文章をこう直してほしいとかいうことではなくて、コミュニケーションづくりのためには、もうちょっと行政が工夫してほしいといった御意見というふうに伺った。

門委員

本当は自分達で努力してすることなのだが。

松田座長

自ら顔が見える関係を維持していくべきだと。

門委員

そうだ。本当は市のほうに、こういうのをやりたいんだがどうかと、しないといけない。

市がこうやりなさいと言われてやるのではなく、本当は地域が自ら実施して、困ったところは行政に支援してくださいというのが本来の筋だろうと思う。

松田座長

理想的なお話で、ありがとうございました。

区長

すいません、先ほどから民生委員さんの個人情報の話が、地元の皆さんで共有できないという、そのためにいろんな地域活動等、見守り活動含めて阻害されてるんじゃないのかという御指摘が余りにも多いので、1つだけ説明させていただきたいが、広島市のほうでも、そうした課題があるというのは十分認識をしている。

1つは、これは、民生委員、児童委員というのは、特別職の地方公務員ということになり、法律で実は個人情報保護ということがうたわれている。

ただ、法律でとめられているから、一切外に出せないかという、実はそうではないという見解が最近出て、ルールを決めて何かできないかという、個人情報の第三者提供についてのルールづくりを、今、広島市のほうで実は検討をしている。早ければ来年の春に一定の方向性を出したいということで動いているので、今まではおっしゃるとおり、出せませんということだったのかもしれないが、新しい第6次基本計画の時代は、一定程度情報共有が地元の皆さんでできるようになるということ、恐らくそういうふうな方向性に舵を切っていくんだと思う。

これは、全国的には非常に先進的な取り組みということで、中国新聞にもお褒めいただいている取り組みの一つで、まだ実現はしていないが、来年の春には一定のルールづくりをして、皆さん方に方向性を示そうということで動いているので、ちょっとご承知おきいただければと思う。

松田座長

解説ありがとうございました。期待をしておきたいと思う。

加藤委員

私は、アクションプランにちょっと片足突っ込んだような形になると思うが、いろいろ考えてみると、2点ほどあると思う。

1つは、今は隣の人は何するか、全然わからなく、なかなかつかみにくいと思う。昔は、向こう三軒両隣という言葉があり、それらが全部うまく機能しておったわけだけど、それが現在全然希薄になっているということで、例えば、町内なら町内で、その組織で見直すというような形をやらないといけないと思う。

その原因の一つが、町内会への加入率が非常に低下しておるということを知っている。私の町の丹那新町の町内会で言ったら、老人クラブと子ども会がない。子ども会も、3年ぐらい前に役員をやらされるからいうんで、みんな入らず消滅した。それには、もう誰かが

お世話しなきゃいけないということはわかっているが、やらされるからやらないとなる。確かに夫婦で働いておられるところは、難しい面があると思う。しかし、誰かがやらなければいけない。でなければ、必ず消滅すると思う。

町内会にしても、加入率がものすごく低くなって、もう金銭的な面で対応できなくなるということも出てくるかもしれない。そうなると、町内会自体が消滅するということにもなりかねず、そうすると、もう極端に言えば無法地帯になるんじゃないかなというように思っている。

私が以前町内会長やっていたが、やっぱり町内会長の仕事の一つに、次の会長を育成するというのも必要じゃないかと思う。だから、副会長にいろいろやっていただいたという経緯がある。

そして、2年前に、会長、役員、全部私は降りたが、そのときにすぐ次の町内会長が決まった。そういうこともあり、とにかく町内会というのは消滅させてはいけないというのを一番に思っている。そのためにはどうすればいいのかについての、このなぜ、なぜ、なぜを2回か3回ぐらいやれば大体実行できそうなものができるんじゃないかなと思う。

今、区長の方からお聞きしました話では、私も民生委員をやっておりましたが、確かに、民生委員はたくさんの情報を持っていて、守秘義務がある。だけど、相手の命にかかわることだったら、私は出してもいいのではないかと思う。やはり命が一番大切なので、何に使うのかと細かいことを聞いて、出せばいい。警察の捜査のときに、孤独死された方がいたが、ここの方のことを知りたいんだがということで、捜査協力ということで、それが自然死か他殺か、そのことを調べるために、話しを出した。

そういう経緯があり、私が会長のときは、それは個人個人の判断でやれということをよく言った。

松田座長

ありがとうございました。やはり町内会に代表されるが、近隣コミュニティの取り組みを強化すべきだということで、ありがとうございました。

角田委員

私のところは、荒神町学区で、大須賀からマツダスタジアムまでが荒神町学区だが、駅南口周辺もきれいになり、そういうきれいになったところに友元神社というのがありますが、毛利さんのつながりがあると聞いている。それで、8月6日の原爆を免れて、強い運勢のあるって友元さんを、そこの新しいエキシティ・ヒロシマの中に祭ってあるが、集客のための神社でもあり、地区ではそういったたくさんのお祭りを子ども会やあと地区社協全体でいつもまとめてやっている。

それから、お祭りで言ったら、そこの友元神社の祭りで、町を子どもたちがおみこしで練り歩いてしたりとか、あと、荒神えびす祭っていうのがあり、そこでも子どもたちが、いろんな演芸ができるように、歌ったり、踊ったりしている。地域の人たちもいろんな活動をされて、そこで食べる場所も作ったりして、とってものにぎわっている。昔ながらの

お祭りとしては、亥の子祭りとか、とんどとかを小学校を挙げてやっている。

それなので、荒神町学区としては子ども会の参加率は、ほとんど100%に近い。また、私の子どもたちが行っていた時代とは全然違って、マンションができて子どもが少し増えてきて、もう小学校が本当に狭くなってきた。100人を超えたといって、皆さん喜んで。バス2台ぐらいでサーカスに行ったり、いろんな活動もしているし、よく子ども会がなくなっていくとか、そういうのを聞くので、荒神町学区としては、子ども会が盛んになっている。

人と人とのつながりっていうのも、自主防災を通してのつながりとか、あと、とにかくお祭りが多いので、いろんなことで子どもたちも参加している。

敬老会も、小学校の子たちが、敬老会に来られたお年寄りの方たちの前で、ちょっと劇をしたり、歌を歌ったり、ダンスをしたり、あと地域の方々が自分の得意なジャンルのことをされたりしてにぎやかにできている。

ただ、ちょっと、マツダスタジアムがあって、道路がとても混む。試合がある日は、駅のほうにも、球場のほうにも行けないぐらいとても混んでくるので、道路のほうがもうちょっと広くなればと思う。

#### 松田座長

ありがとうございました。お祭りを例にとった子どもたちの体験とか、あるいは子どもたちと高齢者のコミュニティというようなお話でした。

実は、現在の4つの柱立てが、安心・安全が2番目で、3番目に愛着が持てる心豊かなということで、特にイベントとか祭りという単語が今出てない。先ほどほかの方の御意見の中で、南区民が楽しむということも必要なんではないかという御意見があったので、ちょっとどこに具体的に文言として入れるかというのは、テクニク論になってくるんだと思うが、そういった御意見があったということで、頂戴したいと思う。

それから、駅からマツダスタジアムの周辺道路の件は、時々新聞に出たり、問題になっているので、何かされるんだろうと思うが、その辺の話は本庁のほうの仕事なので、また機会があれば、伺いたいと思う。

#### 高橋委員

私は、青少協なので、子どものことは本気でやっている。

それで、今も皆さんから意見が出たが、町内会が活発にという話もあったが、うちも盆踊りとか秋祭りをやっている。にぎやかにやっていれば、子どもなんかも一緒にやるので、その辺はそれでいいと思う。要するに、祭りなんかをにぎやかにやれば、みんなが仲良くなるんじゃないかというような考えを持っている。

近いうちに夏休みがあるんで、うちは東青崎公園というかなり広い公園があり、そこでラジオ体操をする。そのとき、100人ぐらい集まり、子どもが60人ぐらい、大人が40人ぐらい集まる。それで、町内会のほうから参加賞を出して、にぎやかにやっている。こういうようにいろいろな催し事をやれば、大人と子どもというのは、案外いい具合にいくと思う。

それで、さっきも民生委員の話が出たが、うちも民生委員が2人おり、私の町内会の関係でやっている。

それで、民生委員から、私に相談に来る。それで、こうしなさい、ああしなさいということを書いて、接触しとるわけなんだが、私も熱心にやっておき、町内ではすっかり顔が知られているので、都合が悪いときには私が行って話をするというような格好になっている。民生委員にも、とにかく夏の暑いときに薄着でおられてだから、あんまりのぞき込まないよと言いき、外から声をかけるだけにしなさいという言い方をしている。ひとり暮らしの人のところに、元気かと確認に行くのなら、戸をあけて中を見なくても、声だけ聞いたらそれでいいというような形をとっている。

それと、子どもの問題だが、私は見守り活動として、小学1年生を毎日連れて家まで帰っている。これが、4箇所、7、8人でやっており、そういうことをしておれば、親とも親しくなれたし、子どもとのつながりというものもできた。朝も登校時間に見守り活動を行い、下校時間は1年生を連れて帰るという格好で接しているのだから、しっかり地域の子どものにも、大人の人にも顔見知りになっていただいて、とにかく感謝の言葉をいただくようになっている。

こういうように、子どものことは私も本気でやっている。現在は、小学校を囲む4箇所の道路を全部、30キロゾーンにしてくれと広島南警察署へお願いに行き、今、調査してもらっている。

とにかく子どものことは、一生懸命やっている。

#### 松田座長

ありがとうございました。祭りということも出ておりましたけども、催し物をすればコミュニティはある程度つながっていく。あるいは、子どもをネタにして、親や地域とつながっていくという、そういう手法があるという御紹介でした。

#### 平岡委員

私は、地域との交流はとても大切だと思っているので、保育園に、年に2回か3回、声をかけていただいて、その民生委員さんや老人会の人、皆実地区の更生保護女性会の人だったりとか、いろんな人と組んで、保育園の行事に参加している。園児の方が一番喜ばれるのはおじいちゃんの手をたたいて喜ばれる。男の人の参加が少ないが、おじいちゃんにはおじいちゃん、おばあちゃんにはおばあちゃんの役目があるので、そういう機会が増えてくればいいと思う。

参加してもらう人は、大体同じような人が行っている。こういう会も広がってほしいと思う。

地域の中で、個人的にサロンを作っている人がおり、月に1回行っている。参加に制限はなく、生後半年ぐらいのお子さんを連れてくる人も、二、三歳ぐらいのお子さん連れてくる人もあって、それで高齢の方が子どもと一緒に遊ぶ。お母さんは、そのときは何をするかといったら、他の高齢の方たちが手芸なんかを教えてくれる。一生懸命それを習って

おられるので、高齢の方は、子どもさんの優しい声を聞くと癒やされるし、お互い知らない者同士の交流もでき、とってもいい会を持っておられる。こういう会もまた広がってほしいと思う。

先ほどありました老老介護だが、老老介護より今は認知介護が増えてきて、認知症の人を認知に近い人が見てるといふのがあり、夫をどこまで今お世話したかなというのわからない人がいる。私の身の周りにもいるが、そういう人たちは、子どもさんがおられても、それぞれの人生があって、生活があるので、頼れる親族が近くにいないことが多い。やはり、そういう時は、何もしてあげられなくても、身近な人が話を聞いてあげるといふことが一番大切だと思う。

松田座長

ありがとうございました。やっぱり高齢者と小さなお子さんの交流というのは、どちらのためにもなり、お互いにエネルギーをいただけるといふので、具体的なアクションプランでは交流サロンというのをどんどん広げられたらいいと思う。

丸山委員

南区PTA連合会の会長をされており、ちょっと自己紹介をさせていただきます。

私、各23校の単位PTAの会長職はしておりません。それで、去年、ちょっと南区PTA連合会がもめまして、私が会長を引き受けました。それなので、行政のこととか、わからないことは多いが、失礼がないようしゃべるので、よろしくお願ひしたい。

少し疑問に思ったことが、新しい計画、事務局案の3つ目の柱、歴史と文化が生かされ地域に愛着が持てる心豊かなまちづくりとあるが、この概要のところにはスポーツというのが入っている。

このスポーツという言葉が、概要のところにはあるが柱には出されてないのが、何かちょっと寂しいと思う。

私、南区PTA連合会の会長をやっているが、年に1回、親善スポーツ大会を行っている。

新しい競技として、3年前にふらば一るバレーボールというのをスポーツ推進委員さんから提案され、普及を進めて今ではすごく盛り上がっている。

今、エネルギー不足とか、何かを始めるのにどうかなと、皆さんおっしゃられましたけど、そうではなくて、多分、それを取り巻く環境ができてないのかなという感じがする。始めたときも、やはりPTAの役員、幹部がかなり犠牲を払って進めて、3年たって普及に至ったという経緯がある。

なので、エネルギーがあれば何とかなるんじゃないのかなと思う。なので、そういうところをていねいに頼めばいいのかなというのが、私の個人的な意見だ。

それとあと、私が会長になったときに、23の団体の連合会として集まるのに、なぜ、PTAとPTAの横同士が仲よくないんだろう、情報交換がないんだろうとすごく思った。なので、横へのつながりがもっと隔たりなくあったらいいのではないのかなというのが、

皆さんの意見を聞いて思った感想だ。

私はいつも皆仲よくなりましょうと、言っている。まずそれが一番だと。支え合いがやはり基本だが、今の人たちは、それが重荷になっているような気がする。なので、今のニーズに合わせた、若い意見がそのまま伝わってくるものなどがあつたらいいかなと思う。私は一番この中では若く、しっかり物を言っていこうと思うが、やはり気押しされて、なかなかしゃべれないこともある。どんどん、こういう若い者に声をかけていただけたらいいと思う。

松田座長

ありがとうございました。一巡しましたけど、あと3分ほどありますので、追加意見があれば、どうぞ。

門委員

すいません、補足だが、元宇品町内会でも、PTA、子ども会でも、ちゃんとやっている。PTA、子ども会は若い人、町内会はほとんど年寄りだが、みんな快くやってくれるので、そういう意味では助かっている。

松田座長

ありがとうございました。

私が総括できるかどうかわかりませんが、多くの委員さんが、事務局案の2番目と3番目についての御意見が圧倒的であった。キーワードは、例えば「高齢者」だとか、「子ども」だとか、「近隣コミュニティ」とか、「全員参加」だとか、「祭り」とか「催し物」だと思う。それから、「高齢者と低学年の子どもたちの交流」とかというのがありました。

それから、組織同士の連携みたいところは、制度のことであるので、ここの概要にはなじまないのかもしれませんが、御質問として、3番目のスポーツという単語が浮いてる感じがするという御意見がありました。

全てのことが言い切れているかどうかわかりませんが、今いただいた御意見に関して、まず、事務局のほうから補足説明とか、あるいは、これはこういう風に考えるととか、この場で修正案ができるとは思いませんので、何日か後にまた皆さんに修正案を打診するとか、ちょっとどのような運びになるのか承知していませんけども、今後の対応についてお聞かせ願えたらと思う。

地域起こし推進課長

皆さんからたくさんの貴重な御意見をいただいた。先ほどの方向性を、事務局で案をたたき台として作ったその背景としては、前回の会議でアンケートとか意見というところから出たキーワードをいろいろ出して、それをつなぎ合わせてといったところで、たたき台とした形に整理したものだ。

田丸副座長の話にもあつた2番目の子どもの居場所づくり、高齢者見守り活動という

ころを外して大丈夫かという御意見があったが、事務局としては、前回の計画にあった子どもの居場所づくりにつきましては、この10年で広島市全体として、オープンスペース等を含めてかなり整備が進んできたのではないかと考えている。

また、アンケート等、前回の会議での意見の中で、子どもの居場所づくりといったようなことが出てこなかったということから、ちょっと外させてはいただいたという形になる。

ただ、おっしゃられたように、高齢者の見守りについては、アンケートの中の福祉の部分で10名の委員の方が課題として捉えており、これは、課題として考えれば、高齢者が孤立していくということが課題ということになるのかなと思う。事務局案では2つの大きな課題として、地域活動の担い手の育成をまず課題としてあげ、それから、地域の防災・防犯活動のことも課題としてあげた。単純に、ここの中に高齢者等として入れていくのは、ちょっと乱暴なのかという思いもしている。

見守り活動については、またこれも乱暴かもしれないが、みんなが支え合うというところで、包含をしたつもりではいたが、やっぱり御意見の中で、不十分のかなという気もしている。

それと、先ほどの丸山委員のスポーツのことは、3番目の柱の中で浮いているんじゃないかというところで、前回の柱の中では、スポーツという言葉が出てきていなかった。ただ、文化・スポーツ施設として、マツダスタジアムが南区の地域資源ではないかというアンケート結果もあり、昨今ではカーブなどの各スポーツの活性化というところもあるので、文化の中にスポーツもあるという前提の中で概要にスポーツというワードをこの中で入れたということがある。

また、先ほど座長の方からあった近隣コミュニティだとか、イベント、祭りといった、いろいろキーワードをいただいたので、これについては、それぞれの中でどういう形で盛り込ませていただくかということ、事務局のほうでも検討させていただければなと思っています。

松田座長

おさらいだが、委員の意見の中では、キーワードが何点か出ましたが、少し、直すかどうかも含めて、事務局で預かって、また後日皆さんに回答するというところでよろしいでしょうか。

区長

文言については、修正が必要になってくると思う。地域の祭りとかは皆さん、昔からあるお祭りということをやっていると思うが、そういったものというのは、その地域の歴史的な文化であり、遺産であって、そうしたもののの中に入るので、個々具体的なものが枕詞にないのが、文言的に不親切なところがあったのかなというのが一つある。

それと、スポーツのところだが、文化の中にスポーツもあり、スポーツも文化の一つというイメージが我々としては非常に強かったので、文化的なものの中で、そしてスポーツもするしということできてた。

ただ、ちょっと違和感があるというお話なので、ちょっと文言はテクニカルに修正が必要だと思う。

それとあと、2番目のところについては、人と人のつながりを大切にしたいと今、なっているが、秋田委員のほうから、少し冷めた表現だと御意見があったので、楽しく豊かな生活ができるまちづくりというように、修正するのも一つあるのかなと思う。

また、高齢者あるいは子ども、そうしたキーワードが従来あったものが、今回なくなっているという御指摘だ。これについては、これをどう入れ込んでいくかというのは、ちょっと今すぐに思いつかないが、アンケートの主な回答だったり、あるいは第1回の主な意見の中でも、やはり高齢者あるいは子どもというのはキーワードとしてちゃんと入っていたので、そこら辺をどういった形で反映させていくかというのは、ちょっと検討をさせていただきたい。

あまり時間もないが、事務局のほうで一旦持ち帰って、座長さんとまた協議をして、修正案を皆様方のほうにお示ししたい。またそこでも意見をいただいて、最終的に取りまとめたいと思っている。お集まりいただくというのはなかなか難しいと思うので、書面なり個別に当たって、御意見を集約したいと思うので、よろしくお願ひしたい。

松田座長

ありがとうございました。非常に柔軟なかつ切れ者の区長さんだ。懇談会を円滑に進めるために預かって、修正をした上で、皆さんに投げかけるということだ。頼りにしているので、よろしくお願ひしたい。皆さん、そういうことでよろしいでしょうか。

時間的な期限があると思うので、最終的には、事務局と座長のほうで調整して返すことになるかもしれないが、一旦は事務局で吸収して、皆さんにお返しをするということだ。

この件は重要な審議事項なので、一部修正してもう一度投げ返したいというふうにさせていただきます。